

参考：ブダペスト水サミット 2019 各セッションサマリー

<p>Session 1:</p>	<p>Can Water Crises be Prevented?</p> <p>「水危機は防げるのか」</p> <p>セッション1では、リスク管理や、災害コントロール、異常気象が発生した後、経済をどう回復するかに関する議論が展開された。パネリストは、強靱なインフラへの投資を増やしていくこと、水資本に対する損害を生じさせる活動を減らしていくこと、早期警報システムの改善等を推進していく事の必要性を強調した。世界には、310の越境河川や越境湖、592の越境帯水層があり、世界人口の半分はそれらに隣接した地域に住んでいることを鑑みると、水管理に関する越境協力の必要性が言及された。</p>
<p>Session 2:</p>	<p>Value of Water vs. Costs of a Water Crisis</p> <p>「水の価値化と水危機のコスト」</p> <p>セッション2では、まず、水には、自然的要素、環境資源、水と衛生へのサービス、経済部門への投入という4つの側面があることが言及された。パネルディスカッションでは、水の価値化は、単にコスト便益分析を行うだけでなく水の価値化に関する制度構築を行っていきけるよう、利害関係者間において水の価値化に関する共通理解に達することの重要性が強調された。</p>
<p>Session 3:</p>	<p>Water Crises - What is the Economically Rational Behavior?</p> <p>「水危機：何が経済的に合理的な行動か？」</p> <p>セッション3では、政策と資金分野の複雑性にどう対処するかといった議論が展開された。パネルディスカッションでは、経済的な水循環に関する意思決定を行っていくためには、水の循環を意識した経済アプローチをとり、水不足を示唆する税の導入など、補完的政策の実施と共に、需要を管理し、利用者間で公平で平等な水分配を行っていく事の重要性が強調された。</p>
<p>Session 4:</p>	<p>Water Stress and Mass Migration - Is There a .Way to Prevent Crisis?</p> <p>「水ストレスと大量移民危機を防ぐ方法はあるか」</p> <p>セッション4では、難民のための水インフラや、水リスクモデル、水循環、経済開発のための新たなモデルに関する議論が行われた。トルコのBekir Pakdemirli農林大臣は、基調講演で、トルコは、主に、3600万人のシリア難民を受け入れており、これまでに、400億ドルを費やしていること、そのうちの5%は、難民に対する水関連サービスに充てていることについて言及した。中東海水淡水化研究センターのCiarán Ó Cuinn氏が、水循環の観点から、海水淡水化装置は、人間の生活に不可欠だが、排水の再利用が、より価格が手頃で効率的だと述べた。国際環境NGO世</p>

	<p>界資源機構（WRI）のCharles Icelandは、世界各地の水リスクを示したマップ「Aqueduct Water Risk Atlas」を作成し、189ヵ国及び国内地域の水ストレス、旱魃リスク、洪水リスクを表していることを紹介した。Iceland氏は、近いうちに、民族対立と人口統計指標と水リスクにも焦点を当てた新たなモデルを公開し、課題に対処していく為の提言をまとめることについて言及した。</p>
<p>Session 5:</p>	<p>What is Needed for Doubling Investments? 「投資を倍増するために何が必要か？」</p> <p>セッション5では、効果的な資金動員方法、及び利用可能な資金の効果的活用に関する議論が展開された。パネリストは、特に、補助金の在り方に関する議論に注力した。補助金は、水と衛生へのアクセスに関する普遍的な目標を達成していく上で必要であり、サービスの質の向上を行いつつも、現時点、適切に水と衛生にアクセスできない方々にその恩恵が行き渡ることの重要性が強調された。また、政府が補助金の活用に責任を果たすよう、政府を後押しする際の市民の役割、異なる管轄やセクターを超えて一貫した補助金を提供していく為の環境づくりを行っていくことの重要性が発信された。</p> <p>水投資の倍増に関する議論において、パネリストのうちの一人は、水投資の倍増は、水資源搾取の増加を導きかねないと懸念を表明した。インドの経験から、水に関する補助金は、水に適切にアクセスできない貧しい人々の数を減らすというよりは、都市に住む裕福な人々がより水を使うことに繋がっているという意見もあった。また、資金不足というよりは、ガバナンスに課題があり、政策の役割及び明確なビジョンを提示し、役割や責任を明確にしていく事や、分散型水ガバナンス、コミュニティによる水管理の重要性が強調された。</p>
<p>Session 6:</p>	<p>Technology to Avoid Water Crises - What is Missing? 「水危機を阻止する技術：何が足りないのか？」</p> <p>セッション6では、水の活用効率改善のためのツール、データおよび技術を実践に活かす為の手段に着目しつつ、SDGと技術をどう結び付けることができるのかという議論が行われた。次に来るものは何か、という質問に対し、パネリストは、自然由来の解決策を人工知能に統合すること、技術導入に影響を与える社会・政治的要素に取り組むことが言及された。また、これらの実現のために学際的な取り組みの必要性が強調された。</p>
<p>Session 7:</p>	<p>Science Against Water Crises: Do We Know Enough? 「水危機に立ち向かう科学：我々は十分に知っているのか？」</p> <p>セッション7では、水課題を解決するために、関係する知見を収集し、</p>

	<p>コミュニケーションを行ったり、対立する関心を調整する政策決定者を支援したり、SDGsのモニタリングを改善していく上での科学の役割に関する議論が行われた。</p> <p>APWFの主要メンバー機関である国際水管理研究所（IWMI）のClaudia Sadoff所長は、水危機に対して何がわかっている、何がわからないのかを分かりやすく伝え、政策決定者が課題解決に向けて適切に意思決定を行っているよう、科学的データや情報を政策に生かしていく上でのコミュニケーション改善の必要性を強調した。</p> <p>東京大学生産技術研究所の教授であり国連大学副学長である沖大幹教授は、国連で2001年に採択され、2015年まで取り組まれていた国連のミレニアム開発目標（MDGs）のうち、飲み水に関する目標が、MDGsで採択された数少ない目標の一つであるが、これがどのようにして達成されたか、なぜうまくいったのかを解明することは、SDGsの達成に向けた取り組みに役立つことを述べた。また、科学者や国際システムに適切な質問を投げかけ、よりよい取り組みにつながるような枠組みを提案することも科学者の役割であることを強調した。</p> <p>ニューヨーク大学のVörösmarty氏は、SDGsのモニタリングを高めていくために、複雑なプロセスの理解を高めていくための分野横断ツールを開発することの重要性を強調した。また、研究への公的資金の低減の結果が新たな技術開発力の低減となり、社会的にも影響していることが十分に認識していないことについて触れ、民間企業とのパートナーシップを強化したり、サテライトデータをオープンソース化していく事の重要性を述べた。</p>
<p>Session 8:</p>	<p>Implementation - Do We Have the Right Systems in Place?</p> <p>「実践：我々は、その場所にあった適切なシステムを有しているのか」</p> <p>APWF執行審議会議長のラビ ナラヤラン氏が、セッション8のモデレーターを務めた。本セッションは、「実践：我々は、その場所にあった適切なシステムを有しているのか」という議題のもと、「実践していく上での適切なシステムとは、何のための、誰のための、どこでのものなのか」という質問にパネリストは答えた。議論では、農民との共同管理、上流と下流の水資源利用者間との協働、水資源管理に関する倫理的議論、ガバナンスにおいて、信頼を構築しつつ、政治的意思を促進し、コミュニケーションを高めていくことができるようなソフトスキル向上の必要性が展開された。</p>
<p>Session 9:</p>	<p>Transboundary Water Affairs - How to Move .From Risks to Opportunities?</p> <p>「越境河川問題：リスクから機会へどうやって移行するか？」</p> <p>セッション9では、越境河川管理に関する国や地域の協働合意に焦点を</p>

	<p>当てた議論が行われた。</p> <p>UN Economic Commission for Europe (UNECE) による基調講演において、世界人口の40%は、越境河川に住んでいるが、多くの国際水路は、協定が限定的であり、適切に施行されていない、もしくは、実施されていない状況である。越境協力は、社会を安定させ、闘争を阻止し、気候変動によって引き起こされた水危機に取り組むために必要不可欠であり、経済的、社会的、政治的便益を生むことが言及された。</p> <p>イラクのJamal Al-Adly水資源大臣は、水とエネルギーの安全保障、移住傾向、経済成長の確保、国際平和において、越境協力の重要性を述べた。チグリス・ユーフラテス川を事例に上げ、既存の協力に弱点があり、水協定にすべての国が合意していない場所における上流と下流の水管理の課題について言及した。Jamal Al-Adly水資源大臣は、国境が形成される前に川は形成されたのだから、下流に住む人々にも上流に住む人々と同じ権利があることを言及した。</p> <p>バングラデシュのZaheed Farooque水資源大臣は、バングラデシュは上流に位置する大国に囲まれた小さな沿岸国家であり、その観点から発言すると述べた。Zaheed Farooque水資源大臣は、インドと表流水を共有するために1996年に採択されたガンジス協定は、モンスーンの季節における河川水や堆積物の大量流入や、乾期における水不足の課題に対する代替に対処するために、バングラデシュをいかに支援しているかについて言及した。</p>
Session 10:	<p>Is Our Institutional Architecture Capable of Supporting Transformation?</p> <p>「我々の制度設計は、変革の支援が可能なのか？」</p> <p>セッション10では、統合水資源管理 (IWRM) について、パラダイムの転換から制度の転換に移行するためには何が必要か議論された。</p> <p>第1に、IWRMを実装していく上での多様なガバナンスにおける政治的課題が認識された。第2に、SDG6に関して、国連機関の中で、政府間メカニズムや、水に関する科学と政策の連携に携わる機関が非常に限られていることが課題として挙げられた。パネリストは、水管理の全体のサイクルを対象とした新たな協力メカニズムを構築すること、また、バーチャルウォーター（仮想水）を含む水の価値化のような課題に取り組む必要があることを強調した。第3に、2020年は、生物多様性条約にとっても大変重要な年であり、水セクターも本条約や2020年以後の生物多様性の枠組み、国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ (SAICM) に関する対話に関わっていく事の重要性が強調された。第4に、持続可能な開発に関する既存の他の国連の議題に水課題を組み入れること、2023</p>

	年に実施される「水の国際行動の10年」の中間レビューを通じて、各政府の行動を活性化させていくことの重要性が言及された。
--	---